

令和8年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立城南中学校

4月から5月にかけて、文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童・生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育の改善を図るとともに、児童・生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

調査期日

令和8年4月23日（木）

(注)中学校英語及び質問調査については、オンライン方式（CBT方式）のため、調査日を分散して実施

調査の対象学年

中学校第3学年

調査の内容

(1) 教科に関する調査

国語、数学、英語（英語は一人一台端末を用いたCBT方式）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
調査問題では、上記①と②を一体的に問うている。

(2) 質問調査（1人1台端末を用いたCBT方式）

児童生徒に対する質問	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
学校に対する質問	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

教科に関する調査結果及び考察について

- ・ 全国学力・学習状況調査は、小学6年生及び中学3年生を対象に、国語、算数・数学、英語について実施されています。
- ・ また、調査問題は、各教科の一部の内容について出題されているものであり、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり、「学校教育活動の一側面」です。
したがって、調査結果を見る際には、この点をご理解いただいた上で、ご覧ください。
- ・ 中学校英語のみ「IRTスコア」による公表です。

【参考】

- IRTとは、項目反応理論（Item Response Theory）と呼ばれる統計理論のことで、生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、生徒の学力によるのかを区別して分析し、生徒の学力スコアを推定することができる。
- IRTでは、これまでのように、同一の問題セットを生徒が一斉に解答し、その正答数によって正答率を算出する調査とは異なり、複数の問題セットが用意され、個々の生徒が異なる問題セットを解答しても、生徒の学力スコアを推定することができる。
- 各学校や自治体に提供されるIRTスコアは、500を基準にしたスコアで示される。

調査結果及び考察

質問調査

佐賀市学校教育ビジョンに関わる設問より（キーワード：自律・尊重・創造・主体性・当事者意識）

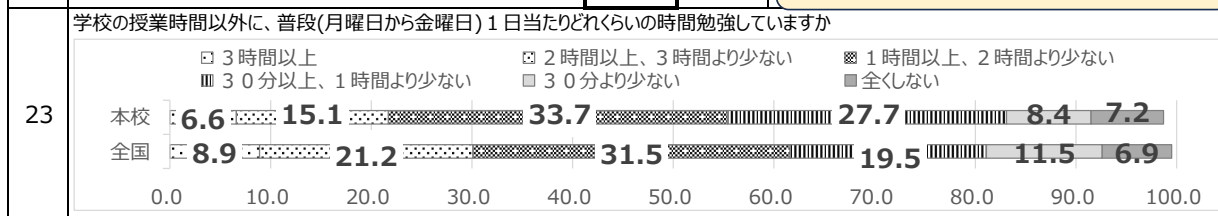
《質問領域：主体的・対話的で深い学び》

（注）数値は「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」等、肯定的な回答の割合（％）

質問番号	質問事項	本校（％）	全国（％）
39	前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	83.7	78.8
42	学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	85.6	87.0
46	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる	94.6	92.4

《質問領域：主体的な学習の調整、学習習慣》

22	分からないことやよく知りたいたことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	83.7	78.2
43	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	86.7	79.0



本校の調査結果 ※◎（強み）●（課題）

- ◎ 学び合いや話し合い活動が十分にできており、様々な学び方をすることができています。
- ◎ 学習の見通しをもち、学習後に振り返ることができています。
- 友達との話し合いの中で、自分の考えを深める、新しい考えに気づくという視点をもつような支援が必要です。
- 家庭学習の時間で1日2時間以上行う生徒の割合が少なく、家庭学習への支援が必要です。

《質問領域：自己肯定感、幸福感 等》

8	自分には、よいところがあると思う	83.2	84.0
10	将来の夢や目標を持っている	73.5	67.6
15	学校に行くのは楽しいと思う	84.3	85.4
21	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	90.4	91.0

《質問領域：向社会性》

14	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	96.4	95.9
33	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	77.1	72.3

本校の調査結果 ※◎（強み）●（課題）

- ◎ 職業人に学ぶ機会や職場体験学習を実施しており将来に向けて段階的に学ぶことができています。
- ◎ 地域との連携が取れており、ボランティア活動への参加も多くできています。
- 自分の良いところや生活の中で楽しいと感じることを見つけることができるような支援が必要です。

調査結果を受けて

【学校では】

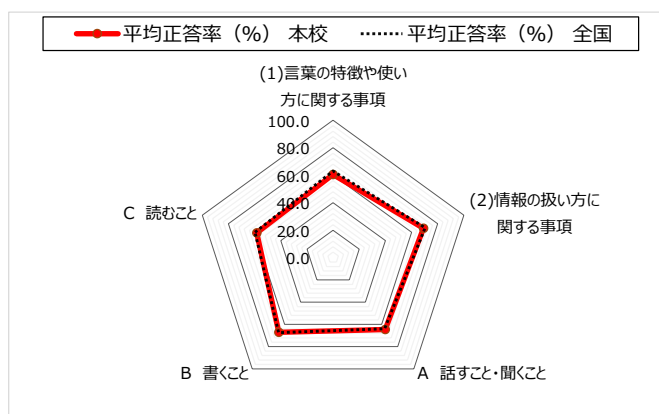
- 学び方の多様性を保ちながら、話し合いや学び合いの目的をそれぞれの場面で伝え、より深い学びにつながるような授業づくりを進めます。
- ノルティを使って自己管理能力やプランニング能力を伸ばし、家庭学習をできる時間を見つけたり見通しをもって行動する力を伸ばしたりできるよう支援します。
- 将来の目標や夢の実現へ向けて、段階的なキャリア・進路学習につながるよう学年間の連携を強めます。

【ご家庭では】

- ノルティをもとに、学校での生活の様子についてや、学習した内容についても話す時間を大切に家庭学習の質や量の充実につなげ、学習内容の定着や理解を進める支援をお願いします。
- 将来の目標や夢の実現へ向けて、挑戦したことや成長したことを積極的に励ましたり、褒めたりしていただきたいと思います。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容		平均正答率 (%)	
		本校	全国
知識及び技能	(1)言葉の特徴や使いに関する事項	60.5	63.0
	(2)情報の扱いに関する事項	69.1	70.4
思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	64.6	63.9
	B 書くこと	67.1	67.4
	C 読むこと	58.4	59.7



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	72.6	72.7
短答式	54.3	55.8
記述式	42.0	45.5

結果 ※◎ (強み) ●課題

◎多くの項目で全国平均をわずかに下回る結果でしたが、「話すこと・聞くこと」の思考力・判断力・表現力は0.7ポイント上回りました。粘り強く考える、継続して学習することができています。

●言葉の特徴や使いに関する事項が全国平均を2.5ポイント下回っています。文脈から意味を読みとり適切に使用する力を伸ばしていく指導支援が必要です。

《正答率の高い問題》【強み】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
2 一	目的や場面に応じて集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる。	72.2	68.5
4 二	語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味をとらえることができるかどうかをみる。	39.5	35.2

《正答率の低い問題》【課題】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
3 一	文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文書の中で使うことができるかどうかをみる。	30.9	39.8
4 四	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにするかどうかをみる。	33.3	38.9

調査結果を受けて

【学校では】

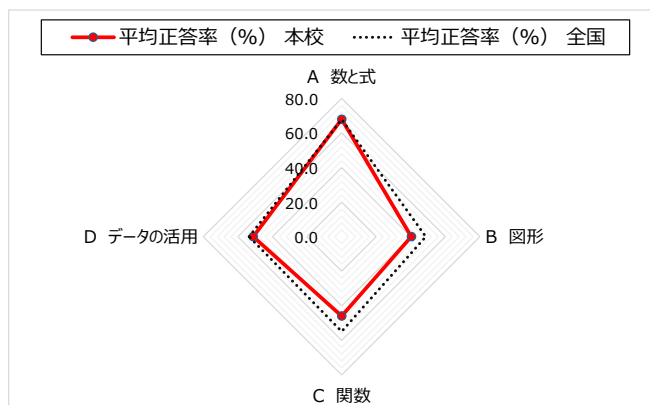
- 話し合いの流れをくみ取り、意図を明確にした発言につながるような授業を行います。
- 辞書やPCを用いた語句語彙の指導を行います。
- 同訓異字について、文脈から意味を読みとり適切に使用する力をつけるために、漢字の書き取り問題に取り組みます。

【ご家庭では】

- 語句語彙の力を身につけるには、読書はもちろんニュースやコラムなどを見て多くの言葉に触れる機会が大切です。それらをもとに話し合い、考える時間の確保をお願いします。また、学習用端末を使って練習問題に取り組むよう、ご家庭でも励ましをお願いします。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容	平均正答率 (%)	
	本校	全国
A 数と式	67.9	67.8
B 図形	40.3	48.7
C 関数	45.9	54.8
D データの活用	51.1	53.5



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	56.8	59.3
短答式	61.2	64.2
記述式	30.2	39.1

結果 ※◎ (強み) ●課題

◎ 数と式については全国平均をわずかに上回っています。式の意味や数学的な用語を理解し、問いを考えることができました。用語の理解や文字式の理解にあたっては具体例を用いて考えることを授業の中で大切にしているので継続して指導していきます。

● 記述式の正答率が全国平均を下回っています。問題を解いた後の答えだけでなく、思考の過程を説明することで表現力を伸ばしていきたいと思います。

《正答率の高い問題》【強み】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
2	同類項の意味を理解しているかどうかをみる。	77.8	70.5
6(1)	問題場面における考察の対象を明確にとらえているかどうかをみる。	76.5	73.2

《正答率の低い問題》【課題】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
3	2直線が平行になるための条件を理解しているかどうかをみる。	35.2	49.1
7(2)	数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる。	21.0	33.9

調査結果を受けて

【学校では】

- 数学的な用語は、教科書の例を活用して正しく理解できるよう、継続して指導します。
- 文字式の意味をとらえるために、具体的な事柄を例として示しながら理解を進める手立てを継続します。
- 学びあいの考え方をもとにして、自分の考えを数学用語や式などを使って説明する活動を取り入れます。

【ご家庭では】

- 学習した内容をその日のうちに数問解きなおすことで、定着につなげるようお声掛けをお願いします。
- テスト後は必ず解きなおしをして、振り返りができるようお声掛けをお願いします。
- 学習用端末を利用して、練習問題などに取り組むことができます。積極的な活用を促していただければと思います。

中学校英語の結果は、正答数だけでなく問題の難易度も考慮した「IRTスコア」で示されています。

《平均IRTスコア》

本校	484
全国	499

《技能別平均正答数》

	聞くこと	読むこと・書くこと	話すこと
本校	1.2 / 2	2.4 / 5	0.5 / 2
全国	1.2 / 2	2.5 / 5	0.7 / 2

※「読むこと」と「書くこと」は、国から提供される結果では一つの区分として示されています。

《強みが見られた問題》

問題 番号	技能	出題の趣旨
5	聞くこと	社会的な話題について、話を聞き、要点をとらえることができるかどうかをみる。
13	書くこと	留学生としたいことについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる。

《課題が見られた問題》

問題 番号	技能	出題の趣旨
9	読むこと	日常的な話題について、短い文章を読み、概要をとらえることができるかどうかをみる。
12	書くこと	自分の思いについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる。

結果 ※○（強み）●課題

- 教師の英語使用量が多いので、生徒の「聞くこと」の力を伸ばすことができています。
- スモールトークをライティングにつなげており、自分がしたいことなどを「書くこと」の力を伸ばすことができています。
- 個別の支援や協働的な学びをすることで、生徒の学力保障につなげることができています。
- 文章を読み取る際に、登場人物の気持ちや状況の変化などを正しく読み取る力に課題があります。
- 「話すこと」については自分の意見を表現することに課題があります。

調査結果を受けて

【学校では】

- 教員の英語での発話をこれからも続けるとともに、リスニング問題に取り組む時間をさらに確保することでインプットの量を確保します。
- 読み取りをするときに押さえるべきポイントを示し、必要な情報を読み取り、文章の概要や登場人物の心情などを理解することができるよう指導します。

【ご家庭では】

- 学習した単語や基本的な文を使用できるように、定着へ向けた基礎学習を行うようお声掛けをお願いします。
- 学習用端末などを利用し、英語を聞く機会を設けることができるようお声掛けをお願いします。